

④1 阪神電鉄本線（鳴尾駅付近）連続立体交差事業

受賞機関 兵庫県 阪神南県民センター 西宮土木事務所

キーワード 開かずの踏切、全国初高架下空間の大学施設、賑わいづくり

全建賞審査委員会の評価ポイント

開かずの踏切5箇所を含む6箇所の踏切を除却するとともに、分断化された市街地を一体化する連続立体交差事業。我が国で初の試みとなる「高架下空間への本格的な大学施設の進出」を実現するなど、高架下への新たな活用方法の採用により、駅を含む周辺地域の魅力向上に寄与している点が評価された。

1. はじめに

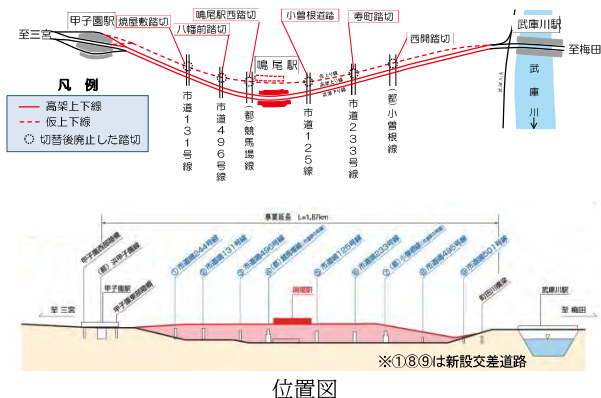
兵庫県では、開かずの踏切等による交通渋滞の解消や駅周辺のまちづくりのため、1970年代から連続立体交差事業を推進している。

西宮市南部地域では、東西幹線道路である阪神高速3号神戸線や国道2号、国道43号を結ぶ南北道路において、阪神電鉄本線との踏切に起因する深刻な交通渋滞が発生していたことから、その解消等を目的として、平成15年に都市計画決定、事業認可を取得し、平成20年度から工事着手、平成30年度末をもって事業完了した。

2. 事業の概要

本事業は、兵庫県が事業主体として、阪神甲子園球場の玄関口である甲子園駅から鳴尾駅を含み、武庫川駅までの約1.9kmを高架化することにより、開かずの踏切5箇所を含む全6箇所の踏切を除却し、交通の円滑化や踏切事故を解消するとともに、市街地の南北分断を解消し、西宮市南部地域の活性化を図る事業である。

また、全国で初めての試みとなる高架下空間を活用した大学施設として「武庫女ステーションキャンパス」が令和元年10月に完成し、地域の魅力向上に貢献した。



3. 事業の成果

(都) 小曾根線の西開踏切では、踏切自動車交通遮断量が約135,000台時/日もあり、約340mの渋滞が発生していたが、踏切除却により渋滞が解消し、南北交通が円滑になったことにより、事業区間における交通量が約1.2倍に増加した。



(都)小曾根線（西開踏切）整備前後の状況

また、本事業において高架化した鳴尾駅の駅舎は、阪神電気鉄道(株)と武庫川女子大学建築学科が協働で、「鳴尾の沖を行き交う帆掛船」をデザインコンセプトに作成し、市景観アドバイザー会議に諮り、デザインを決定した。

さらに、阪神電気鉄道(株)と武庫川女子大学は、地域共生のまちづくりを目指した包括連携協定を締結し、本事業により生まれた高架下空間を活用して全国で初めての本格的な大学施設を整備し、学生だけでなく、地域に開かれた施設として地元住民向けの講座を実施するなど、地域の賑わいづくりに寄与している。



武庫女ステーションキャンパスの外観

4. おわりに

本事業では、鉄道事業者及び地元大学との連携により、駅舎デザインの決定や新たな高架下空間の活用により地域の魅力向上に繋がっており、今後の連立事業の参考となれば幸いです。

最後に、本事業にご支援ご協力いただいた皆様方に多大なる感謝を申し上げます。

賛助会員 (株)鴻池組、(株)熊谷組、戸田建設(株)、東洋建設(株)、西松建設(株)、三井住友建設(株)、(株)駒井ハルテック、中央復建コンサルタンツ(株)、(株)田中組